

# PISA2022の日本の結果

## 3分野全てにおいて 世界トップレベル

### 1 数学的リテラシー

### 2 読解力

### 1 科学的リテラシー

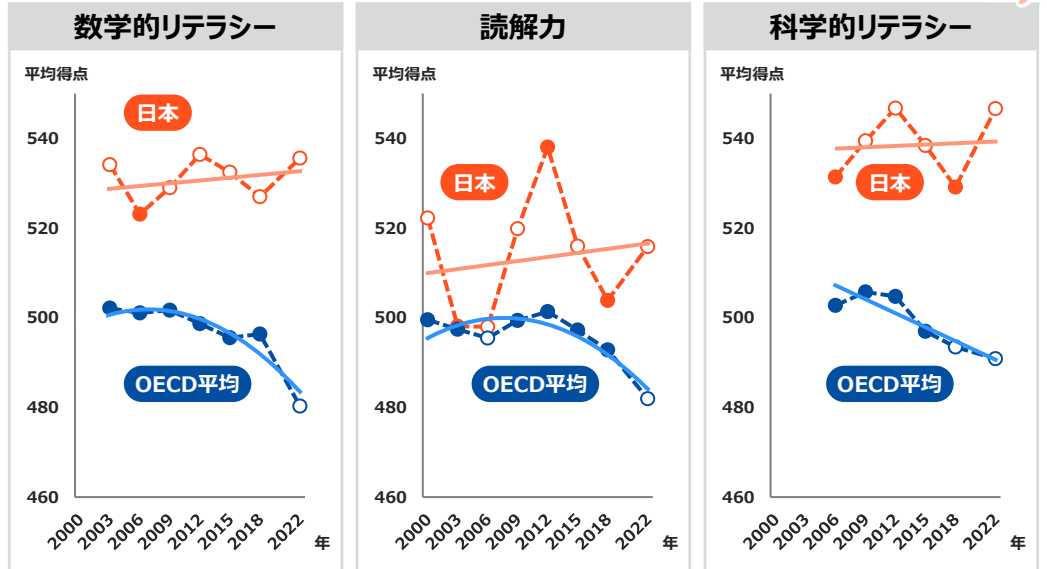
※OECD加盟国中の順位

#### OECD加盟国（37개국）における比較

	数学的リテラシー	平均得点	読解力	平均得点	科学的リテラシー	平均得点
1	日本	536	アイルランド	516	日本	547
2	韓国	527	日本	516	韓国	528
3	エストニア	510	韓国	515	エストニア	526
4	スイス	508	エストニア	511	カナダ	515
5	カナダ	497	カナダ	507	フィンランド	511
6	オランダ	493	アメリカ	504	オーストラリア	507
7	アイルランド	492	ニュージーランド	501	ニュージーランド	504
8	ベルギー	489	オーストラリア	498	アイルランド	504
9	デンマーク	489	イギリス	494	スイス	503
10	イギリス	489	フィンランド	490	スロベニア	500
	OECD平均	472	OECD平均	476	OECD平均	485

□ は日本の平均得点と統計的な有意差がない国

## 3分野全てにおいて前回調査より 平均得点が増



注：白丸はPISA2022年の平均得点を統計的に有意に上回ったり下回ったりしない平均得点を示す

## 日本の結果のポイント

### 1 学力格差が小さい

- 社会経済文化的背景(ESCS)の高い層と低い層との間で、**数学的リテラシーの得点差が小さい。**
- ESCSが生徒の得点に影響を及ぼす度合いが低い。



### 2 低学力層の底上げ

- OECD平均と比べて、**習熟度レベル5以上の高得点層が多く、習熟度レベル1以下の低得点層が少ない。**
- 読解力、科学的リテラシーにおいては、**低得点層（習熟度レベル1以下）の割合が前回調査から有意に減少。**

### 3 「レジリエント」な教育制度

- 新型コロナウイルス感染症の影響にも対処できるしなやかで**強靭な教育制度。**
- ※OECDは日本の他、韓国、リトアニア、台湾をレジリエントな国・地域と分析。



### 4 最先端の環境と規律ある授業

- 「**学校でのICTリソースの利用しやすさ**」指標はOECD加盟国中**第5位。**
- 「**数学の授業の規律ある雰囲気**」指標はOECD加盟国中**第1位。**
- 日本の生徒は、**授業中のICT機器の利用により、注意散漫になることが少ない。**

## 知・徳・体を バランスよく育む 全人的な教育

- 子供たちの状況を総合的に把握して、知・徳・体を一体的にはぐくむ、全人的な教育



## 子供たちの協調性、 規範意識、社会性を 育む教育

- 道徳教育や特別活動、体験活動、生徒指導などを通して、豊かな人間性を身に付ける



## 最先端のICT環境 (GIGAスクール構想)

- 国主導で、わずか1～2年間で小中学校の1人1台端末環境を整備（世界にも類を見ない取り組み）
- 子供たちがICTを「文房具」として利用できる環境を実現



## 質の高い教師 質の高い授業

- 教職生涯を通じて学び続け、成長する質の高い教師を全国に配置
- 授業を公開し、磨き合う「授業研究」を中心とした不断の授業改善



### 知・徳・体を一体的に育む全人的な教育

### 世界 トップレベルの 教育を実現

### 質の高い最先端の教育環境の整備

### コロナを乗り越え進化した新しい学び

### 学びの機会の確保

#### 非常時でも 学びを保障

- 新型コロナウイルス感染症の影響による休校期間を最小限に
- 子供たちの学びを止めない教師や教育委員会の力
- 対面で学び合う、学校ならではの学びの継続

#### ポストコロナ の取組

- 自然体験・文化芸術体験の充実
- コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な取組の一層の推進
- スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの充実



#### 全国どこでも 一定水準の教育※1

- 学習指導要領等や検定教科書等により、全国どこで育っても一定水準の教育を担保

#### 社会経済的背景(SES)の 不利を乗り越える授業改善※2

- 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善
- 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

#### 幼児期から高等教育段階までの 切れ目のない形での教育の無償化・負担軽減